

豊かな暮らしを続けるために

未来まで続く豊かな暮らしを実現するためには、どのような考え方が必要か、考えてみましょう。

わたしたちの暮らしを支えるもの

わたしたちの暮らしに欠かせないきれいな空気、豊かな水、食料や資材などは、実は、森・里・川・海がつながることで生み出される「自然のめぐみ」なのです。自然のめぐみは、自然が保たれることで得られる大切な資源であり、わたしたちの暮らしを支えています。

例えば、「森」では、木が光合成により酸素をつくり、きれいな空気が生まれます。森のやわらかい土が雨を吸収して「川」にゆっくり流れていくため、洪水や水不足が起きにくくなります。森から流れ出た水には、栄養分がたくさん含まれており、「里」の水田や畑にも流れて農作物を育て、魚が行き来します。「海」までたどり着いた栄養分は、魚や貝、海藻を育てます。森・里・川・海はそれぞれがめぐみを生み出し、お互いのつながりが、そのめぐみにより大きく育てます。

しかし、行き過ぎた開発や手入れ不足などによって、そのつながりが急速に失われつつあります。このままでは、動植物などの身近な資源がなくなり、森林や里地里山が荒れていってしまいます。

そんな中、わたしたちにできることは、自分たちの暮らし方は今のままでいいのか、一度ふりかえてみることです。



これまでの暮らしをふりかえてみよう

かつて、人類は暮らしに必要なすべてのモノを、地上にある自然のめぐみから受け取っていました。しかし、工業化の発展により、地下にある化石燃料や様々な資源がたくさん使われるようになりました。そして、いつからか身のまわりを快適にするために、自分に都合よく資源を消費し、自然にあまり配慮せずに土地を開発するようになりました。

このまま、身のまわりの自然から目をそらして、何も考えずに資源を使い続けられれば、自然のめぐみは失われ、いつかは世界中の資源を使い果たし、今のように豊かな暮らしができなくなってしまいます。

それでは、自然のめぐみを回復し、資源を使い果たすことなく、いつまでも豊かに暮らす方法はあるのでしょうか？

この問題を解決するヒントは、「持続可能」という言葉と「環境・経済・社会の問題はつながっている」ということにあります。

コラム 「持続可能である」とは？

「持続可能である」とは、今の地球環境が保たれて、未来まで続くということです。すなわち、現在のわたしたちだけでなく未来の人たちも豊かに暮らすことができる状態である、ということです。現在、人間の活動によって地球の回復力を大幅に上回る影響を地球環境にあたえていると言われていています。わたしたちの子どもや孫も豊かに暮らすためには、地球環境を守り、受け継いでいく必要があります。

持続可能な一人ひとりの行動

流しそめんで例えると...



持続可能であるためには

みんなが流しそめんを食べられるような仕組みをつくることで、「持続可能な社会」につながります。